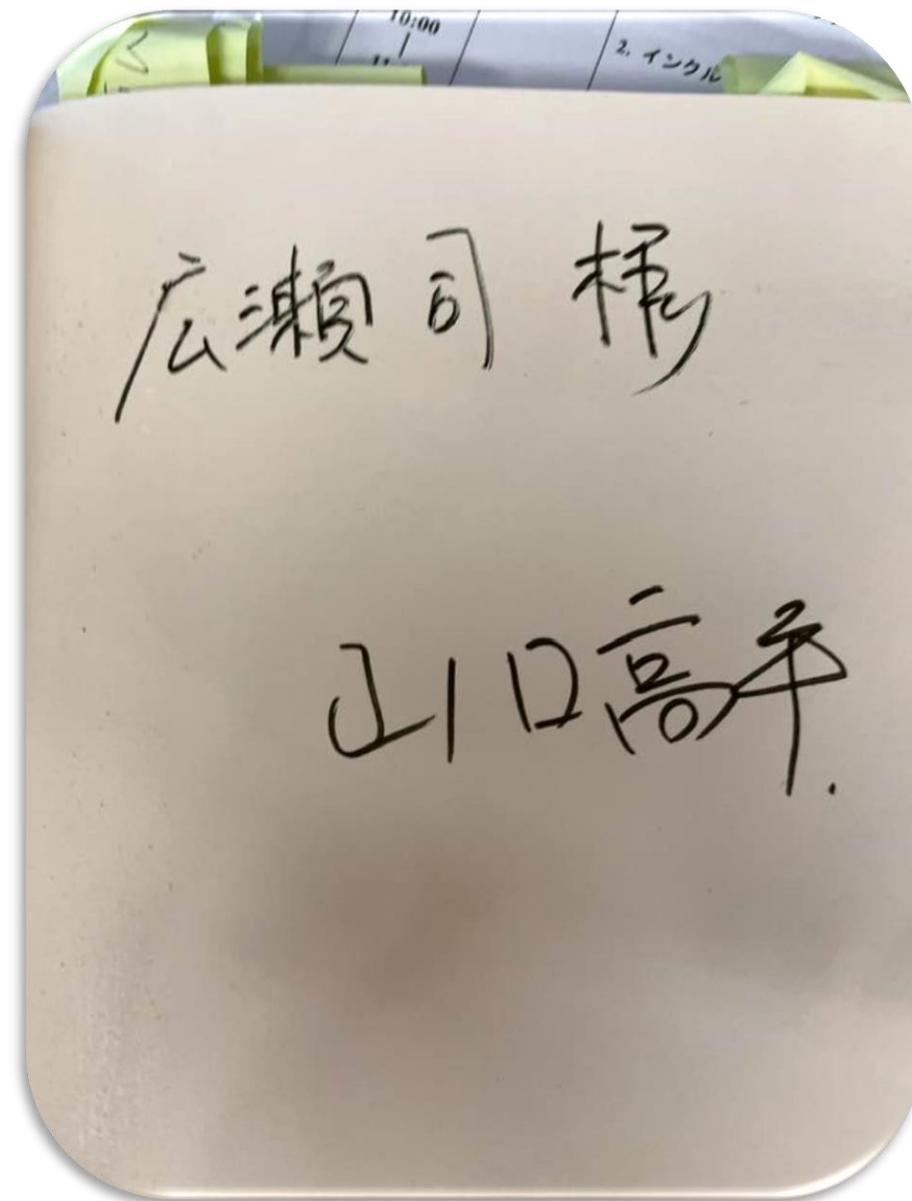


2023年度日本コミュニケーション学会
第52回年次大会「AIとコミュニケーション」
(立教大学異文化コミュニケーション学部後援)
シンポジウム報告

ChatGPTとどうつきあう？

放送大学大学院情報学プログラム修士課程修了生
廣瀬 司

ご挨拶してきました



「AIとコミュニケーション」 シンポジウム

- パネリスト
 - 山口高平先生(神奈川大学情報学部)
 - 鈴木志のぶ先生(北海道大学)
 - 山田晴通先生(東京経済大学)
- コーディネーター
 - 大橋理枝先生(放送大学)

シンポジウムでは、パネリストの鈴木先生と山田先生が、ChatGPTについて山口先生にいろいろな質問をしてくださいました。Q&Aをまとめました。

なお、この記事は、日本コミュニケーション学会の許可を得て公開しています。

教育の現場で共存できるの？

鈴木先生

教育の現場でChatGPTは共存できるか？

ネイチャー誌，サイエンス誌では， ChatGPTの利用は剽窃行為であるとしています。

ChatGPTは， Web上に公開されているドキュメント（1兆語、1億書籍相当と言われている）を組み合わせて回答しているが、利用したWebページを明示しないので、剽窃行為の可能性があると指摘されることがある。

教育現場では、ChatGPTは「壁打ち」のように使えるので、生徒が一人で学習するうえで役立つケースが報告されている。ただし、ChatGPTは、具体的で詳細な質問をしないと有用な回答を返さず、また、間違った回答もするので、回答を鵜呑みにせず、人はその回答を検証する必要がある。我々が良い質問力を身につけて、回答を検証するようにすれば、ChatGPTは良いパートナーになる可能性が高い。

山口先生

鈴木先生

文献を示せないという弱点について， どう対処すればよい？

人が、WikipediaなどのWebページ、辞書、論文などを参照して、ChatGPTの回答の正否を検証する必要がある。なお、ChatGPTはソースコードが公開されていないが、Metaが提供する生成AI「Llama 2」はソースコードが公開されており、近い将来、参照文献も示すことができる生成AIが登場するであろう。

山口先生

「不気味の谷」にならないか？

山田先生

「不気味の谷」となり怖いと感じるのでは？

これからは大きな変化がくるであろう。その昔、ELIZA人工無能があった。ロボットが人間と同じようにコミュニケーションができるようになる過程で「不気味の谷」というものがある。乖離しているうちはいいが完全に同じになる直前に、怖いと感じるのではないか？

※不気味の谷：ロボット工学者の森政弘氏が1970年に提唱

ChatGPTは、高級チャットボットとして人々に既に受け入れられており、2022年11月末に公開され、2023年5月末で18億人ものユーザがいると報告されており、不気味の谷は、既に乗り越えていえる。

ChatGPTには、簡単に間違える、事実検索が弱い、機密情報漏洩危険性などの欠点はあるが、様々な用途があり、多くの人々が関心を示している。ただし、ChatGPTに人格はない。あくまでツールである。横で見ているのではなく、「ぜひプレイヤーになるべきだ！試してみよう！今、時代の変わり目にあるのだから！」と学生に勧めている。

山口先生

フロアから

Q

質問力を高めるにはどのように学習すべきか？
芸術系生成AIとどうつきあえばよいのか？

好奇心を持ち、頻繁に使うことが第一であろう。 また、雑駁ではなく、具体的で詳細な質問・コメント・提案をすることを心掛けることが重要である。
芸術系生成AIについては、Web上で公開された画像を組み合わせて新しい画像を生成することから、モデルの肖像権などの権利侵害リスクがクリアになっておらず、より注意が必要である

山口先生

Q

ChatGPTは不気味ではないか？

不気味ではない。

従来のAIはプログラミング言語により操作したが、ChatGPTは自然言語（日本語、英語）により操作できるため、AIの民主化・大衆化を実現したと言われる。AIが自然言語に対応できたことで、大きなインパクトを与えた。ChatGPTには、長所だけでなく、情報漏洩リスクなどの短所もあるが、気を付けて利用すれば、人の社会を豊かにするものであると私は考える。

山口先生

ChatGPTの評価（山口先生のご講演より）

プラス面

文章（小説なども）作成，要約ができる

500字以内などと指定して、文章の言い換え

ChatGPTで作った文章か否かを判断させる（ただし精度はまだまだ低い）

対話，質疑応答の壁打ちができる

議事録作成，メール自動生成

お悩み，カウンセリング

法務、経理業務の代行（士業どうなる？）

プログラム開発修正（IT業界どうなる？）

マイナス面

機密情報の漏洩（オプトアウトの危険性）

個人情報の漏洩

ChatGPTをハッキングして悪用される危険性

プロンプトエンジニアリングが必要

プロンプトインジェクションの危険性
（AIに対して特殊なプロンプトを入力し、
想定外の動作を引き起こす）

米国では、弁護士がChatGPTを用いて嘘の判例
を引用した

デンマークの首相は演説でChatGPTを用いて、
「魅力的。でも恐ろしい」とコメント

指示，文脈を組み立てる力が必要

- フロアから

Q

人は必ずしも解決を望んでいない。愚痴を聞いて欲しいだけのときはどうするのか？

ChatGPTの性能は日々向上し、ユーザの相談内容に応じて返答するので、愚痴を聞いて簡単な感想を返すことは可能である。

山口先生

Q

人間はChatGPTをチェックする立場になるか？

人間がデバッガーになるのはつまらない。

人は、ChatGPTの回答を検証（デバッグ）するだけでなく、人間とChatGPTの間で会話のキャッチボールをして、生産的な関係になるべきである。現段階では、ChatGPTに対して、隙のない、うそつきで嫌味ったらしい印象をもつ人もおり、まだ愛されるキャラクターではないが、そういう存在に近づいていくと期待される。素晴らしいレポートを書きたいのであれば、高い質問力を備えた人間になり、ChatGPTと生産的な関係を構築すべきである。

山口先生

山口高平放送大学客員教授 の講義

放送大学の学生であれば、放送授業をインターネット視聴できます。 [入学手続きはこちら](#)

AIシステムと人・社会との関係（[放送大学放送授業](#)）

AIプロデューサ（[インターネット配信公開講座](#)）